

《世界の中の東京》

—世界の主要都市と比較した東京の都市力—

世界の中の東京－世界の主要都市と比較した東京の都市カー

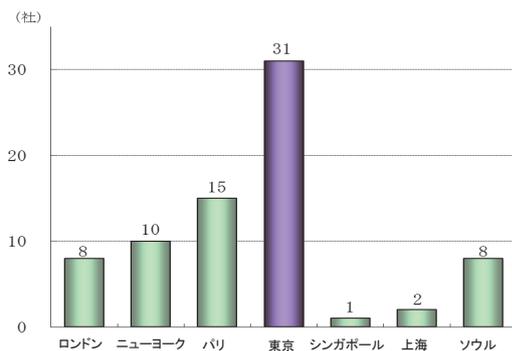
- 既に東京は、ロンドン、ニューヨーク、パリと並ぶ世界のトップランナーとしての評価を確立しているが、今後、「世界一の都市」を目指す上で、東京が世界でどのような地位にあるのかを把握する必要がある。
- 様々な分野における先進都市やアジア諸都市、主要国との比較を行うことで東京の強みや弱みを明らかにし、東京を「世界一の都市」へと飛躍させていく。

経済分野

<世界トップ300企業>

世界有数の大企業トップ300の約1割が集積

(『Fortune Global 500』において、300位以内にランクしている各都市に本社を置く企業数)

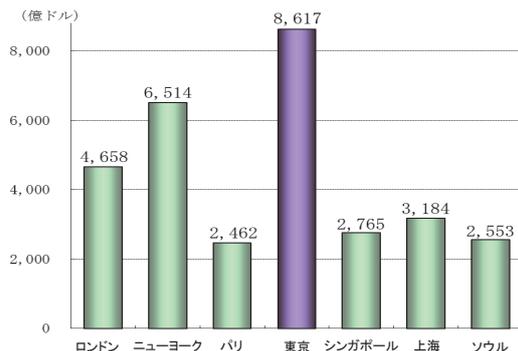


資料: 森記念財団「世界の都市総合ランキング」(2013年)

<都市のGDP>

各都市を大幅に上回る総生産額

(各都市の総生産額)

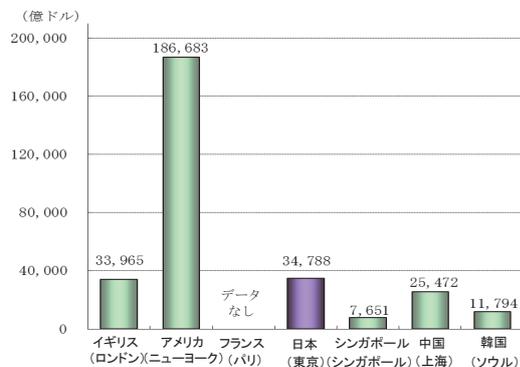


資料: 森記念財団「世界の都市総合ランキング」(2013年)

<証券取引所の株式時価総額>

世界有数の経済都市としての地位を確立しているが、ニューヨークとは大きな差

(主要取引所における上場企業の株式時価総額の合計)

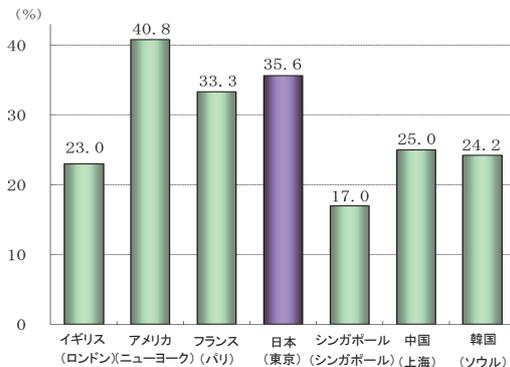


資料: WFE「ANNUAL REPORT & STATISTICS」(2012年)

<法人税率>

各国と比較して高い水準

(各都市が属する国における法人所得税率の実効税率)

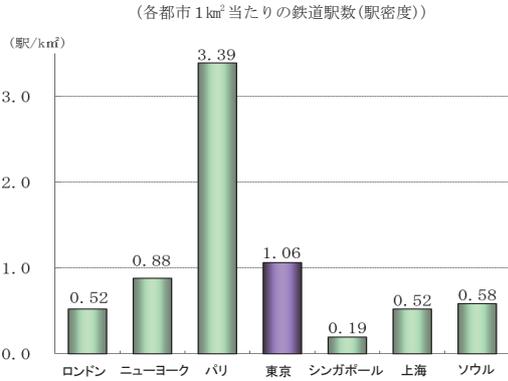


資料: 財務省「国・地方合わせた法人税率の国際比較」(2014年3月現在)

交通・港湾・航空分野

<公共交通(鉄道)の駅密度>

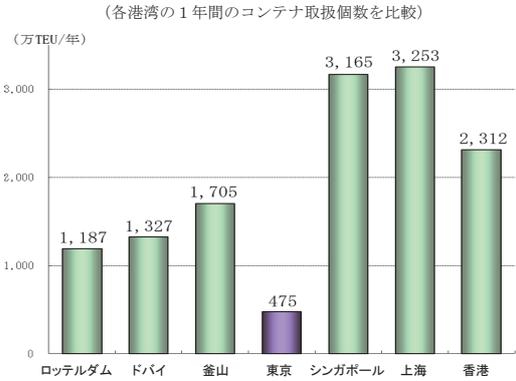
高密度で利便性の高い都市機能を有するが、パリと比較して3分の1の駅密度



資料: 森記念財団「世界の都市総合ランキング」(2013年)

<港湾別コンテナ取扱個数>

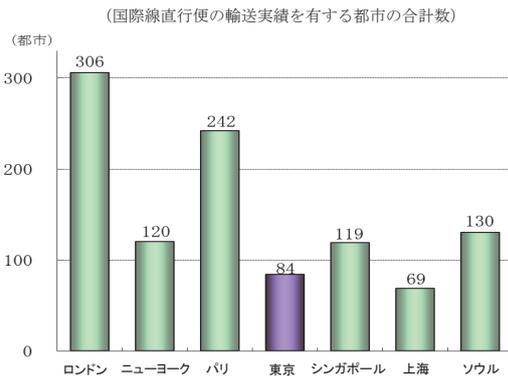
アジア諸港の躍進により国際的地位は低下



資料: CONTAINERISATION INTERNATIONAL「TOP 100 CONTAINER PORTS」(2013年)

<国際線直行便就航都市数>

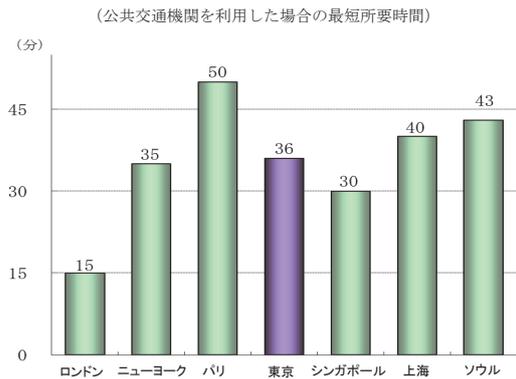
各都市と比較して少ない国際線直行便数



資料: 森記念財団「世界の都市総合ランキング」(2013年)

<都心から国際空港までのアクセス時間>

各都市と比較して遜色ないが、ロンドンの倍の所要時間

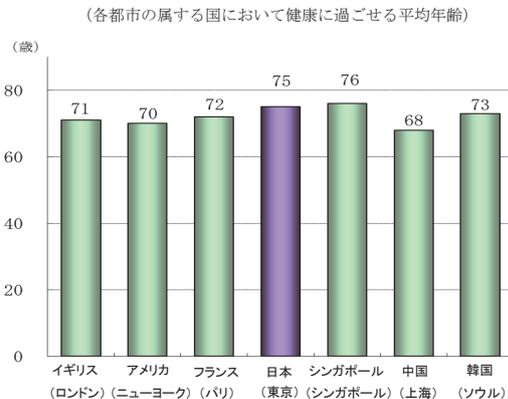


資料: 森記念財団「世界の都市総合ランキング」(2013年)

健康・医療分野

<健康寿命>

健康寿命は世界最長クラスで、多くの高齢者が65歳を超えても健康

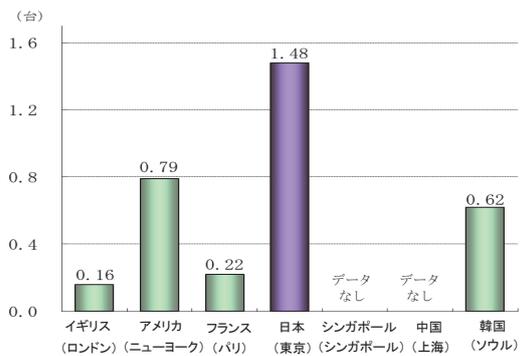


資料: WHO「World Health Statistics」(2014年)

<医療設備数>

充実した医療体制を構築

(各都市の属する国における人口1万人当たりのCTスキャンとMRIの合計台数)

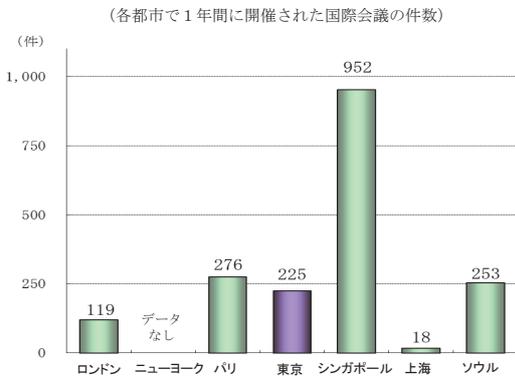


資料: OECD「Stat Extracts」(2013年)

生活・文化分野

<国際会議開催件数>

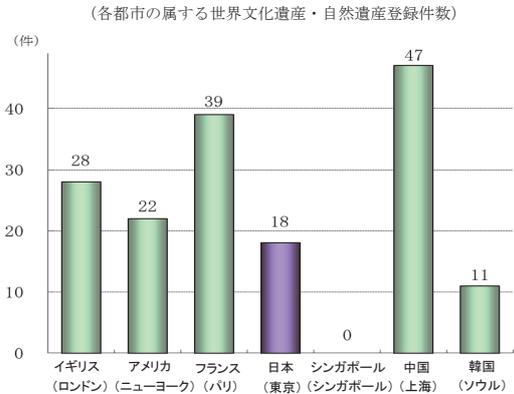
各都市との誘致競争を勝ち抜くためのプロモーションや受入環境の充実が必要



資料: 日本政府観光局(JNTO)「国際会議統計」(2012年)

<世界遺産登録件数>

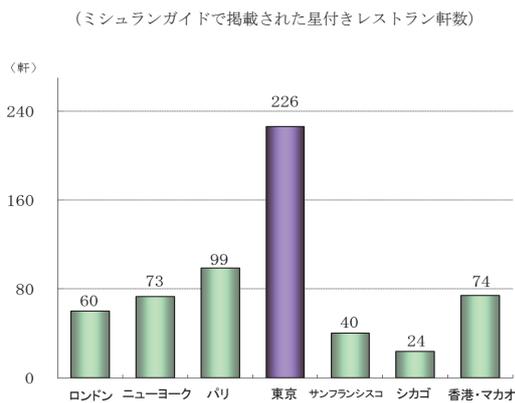
日本の文化は世界的にも高く評価されているが、主要都市よりも少数



資料: UNESCO「世界遺産登録件数」(2014年)

<ミシュランガイドの星付きレストラン数>

世界各国の食が集まり、豊かな食文化を形成



東京都調べ(2014年12月10日現在)

資料: 日本ミシュランタイヤ(株)発行「ミシュランガイド東京2015」他

<物価水準>

各都市と比較して高い物価水準



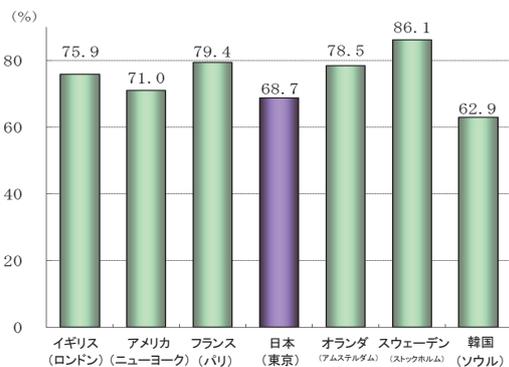
資料: 森記念財団「世界の都市総合ランキング」(2013年)

就業分野

<女性の就業率>

各国と比較して低い水準にあり、就業を希望する女性への支援に大きな余地

(各都市の属する国における25歳以上44歳以下女性の就業者の割合)

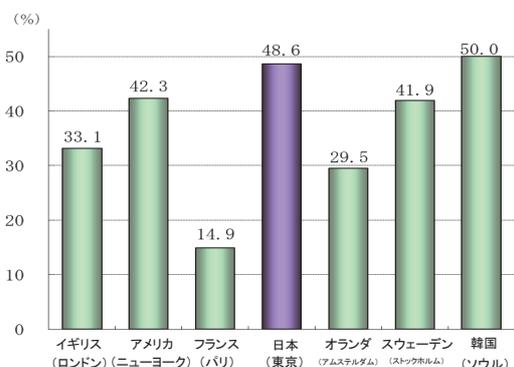


資料: 独立行政法人労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較」(2014年)

<高齢者の就業率>

60代の約半数が就業しているが、健康・社会貢献など幅広い目的での多様な働き方の推進が必要

(各都市の属する国における60歳以上69歳以下の就業者の割合)



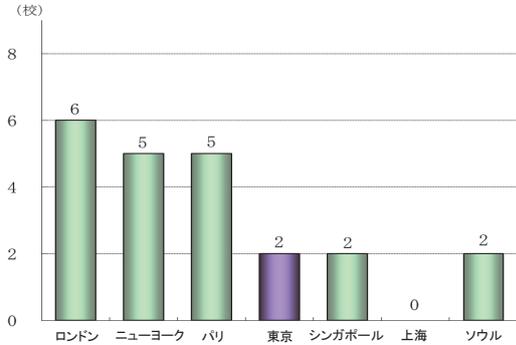
資料: 独立行政法人労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較」(2014年)

教育分野

<世界トップ200大学>

欧米主要都市と比較して少なく、高等教育機関の質の向上が必要

(『The Times Higher Education World University Rankings』において200位以内にランクしている大学数)

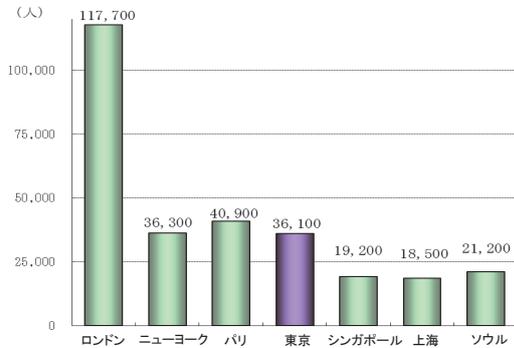


資料: 森記念財団「世界の都市総合ランキング」(2013年)

<留学生数>

ロンドンに大差をつけられており、外国人が留学したくなる都市となるための国際化の推進が必要

(各都市に居住する外国人留学生数)



資料: 森記念財団「世界の都市総合ランキング」(2013年)

<各都市の英語力>

アジア地域の中でも低い水準にあり、更なる英語教育の充実が必要

(各都市の属する国におけるTOEIC®平均スコア)



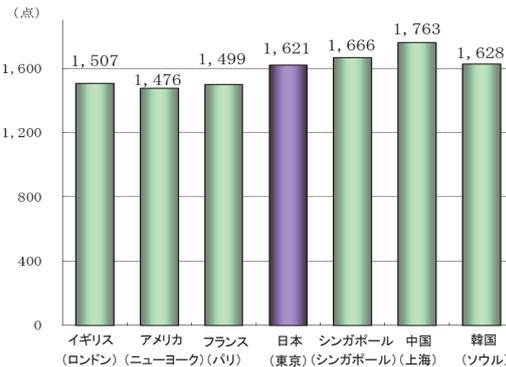
資料: 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会「TOEICテスト Worldwide Report」(2013年)より一部引用

TOEICはエデュケーション・テスト・サービス(ETS)の登録商標です。この印刷物はETSの検閲を受けまたその承認を得たものではありません。

<各都市の学力>

各国と比較して同水準

(各都市の属する国における数学・科学・読解力の平均点の合計)



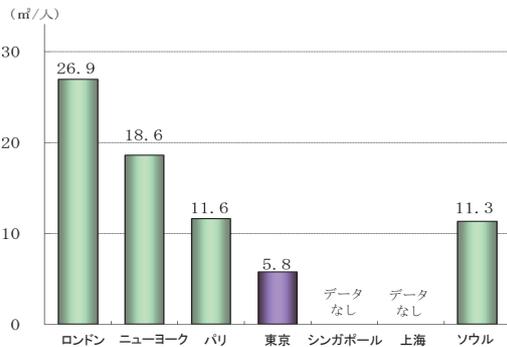
資料: PISA「生徒の学習到達度調査」(2012年)

環境分野

<公園面積>

各都市と比較して少なく、都市公園の更なる整備が必要

(一人当たりの公園面積を比較)

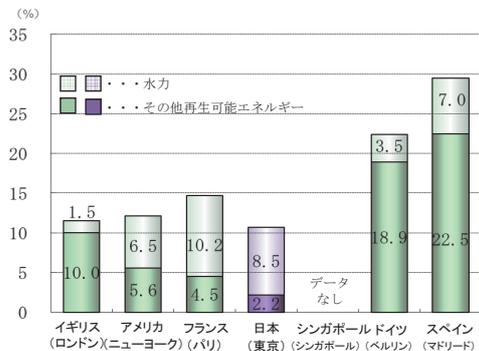


資料: 国土交通省「諸外国における公園の現況」(2012年)
東京については、東京都独自調査による

<再生可能エネルギー導入率>

再生可能エネルギーによる電力の導入拡大が必要

(各都市の属する国の発電電力量に占める再生可能エネルギーの割合)



資料: 資源エネルギー庁「再生可能エネルギーを巡る現状と課題」(2014年)